教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 社会福祉学科　　資格： 教授　　氏名： 大岡　由佳

研究分野	研究内容のキーワード
精神保健福祉	メンタルヘルス、ソーシャルワーク、トラウマ、貧困
学位	最終学歴
博士（保健福祉学）,修士（保健福祉学）,学士（社会学）	関西大学社会学部　卒業 久留米大学大学院比較文化研究科健康福祉文化コース 修士・博士課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.精神保健福祉士実習の手引きに基づく実践	2013年	精神保健福祉士実習においては、実習に向けての一定の知識と技術が求められており、それらの習得のために厚生労働省の指針に基づき、本学独自の手引きを作成した。それをもとに、学生らと双方向のコミュニケーションに基づく授業を展開。
2.社会福祉コース卒業生グループスーパービジョンの実施	2012年～2019年	福祉専門職（社会福祉士・精神保健福祉士）については、卒後教育の重要性が指摘されており、その卒後教育の実践として、年２－３回グループスーパービジョン機会を提供。卒業生の満足度は高いことがアンケート調査からわかっている。これらの存在が、在校生の専門職志向を高める機会にもつながっている。
3.FD授業公開	2012年～2018年	毎年後期学期に行われている学内FDでは積極的に授業公開を行ってきた。2012年「精神保健福祉論」、2013年「精神保健福祉援助技術総論」、2014年はFD推進委員会が推奨する授業公開科目一覧に選出され「精神保健福祉援助技術各論」において、学生との双方向性の対話を重視しつつ知識・技術を体得する授業展開を行った。
2 作成した教科書、教材		
1.教科書『精神保健福祉制度論』精神保健福祉士養成講座（監修）	2021年	監修。一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集（分担執筆）中央法規 指定教科書として利用できるテキスト。
2.教科書『現代の精神保健と課題と支援』社会福祉士・精神保健福祉士養成講座	2021年	大岡由佳「犯罪被害者等の支援」 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集（分担執筆）中央法規。指定教科書として利用できるテキスト。
3.教科書『刑事司法と福祉』社会福祉士・精神保健福祉士養成講座.	2021年	大岡由佳「犯罪被害者等支援に関する制度の概要」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集（分担執筆）中央法規。指定教科書として利用するテキスト
4.教科書「新版・精神保健福祉士養成セミナー７（改訂）精神保健福祉援助演習[基礎][専門]」	2013年	第2章・Ⅱ「退院支援・地域移行」（へるす出版）を執筆。近年、精神障害者の地域への退院を促進していく取り組みが進んでいる。それらの事例をとりあげ、今後の課題を学生が検討できる演習テキストとして執筆したものである。（担当p106-109）
5.「精神保健福祉士国家試験過去問題集2013」、「同タイトル2014」、「同タイトル2015」	2012年～2014年	国家試験第14回～第16回の「精神障害者の生活支援システム」について問題解説を行っている。（複数箇所における記載となるため頁数は割愛）
6.参考書「MINERVA福祉資格テキスト　精神保健福祉士専門科目編」	2012年	科目13.「精神保健の課題と支援」　第2章ー第5章（ミネルヴァ書房）を執筆。近年の精神保健事情を踏まえながら論じている。（担当P108-141）
7.教科書「精神保健福祉相談援助の基盤[基礎][専門]」	2012年	第4章・Ⅲ「社会福祉調査・研究」（へるす出版）を執筆。社会福祉分野における調査研究や質的調査をどのように行うかについて、概要をまとめたもの。（担当p123-135）
8.教科書「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」	2012年,2013年改訂	第5章・Ⅷ「ケアマネジメント」（へるす出版）を執筆。障害者総合支援法が施行され、その中で障害者に向けた計画相談が始まっている。それらの事項について加筆修正を行い改訂したものである。（担当p204-

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		229）
9.教科書「精神障害者の生活支援システム」	2012年,2013年改訂	第7章第1節「市町村における相談援助システム」（中央法規）を執筆。障害者総合支援法が施行され、その中で、市町村における相談援助システムも変更が生じている。その変更点等をまとめ改訂したものである。（担当P226-248）
10.「精神保健福祉士国家試験模擬問題集2012」「同タイトル2013」「同タイトル2014」	2011年～2013年	日本精神保健福祉士養成校協会監修（中央法規）の予想問題として、精神保健福祉論の科目を執筆。（複数箇所における記載となるため頁数は割愛）
11.「精神保健福祉士国家試験過去問題集2012第11回－13回全問完全解説」	2011年	日本精神保健福祉士養成校協会監修（中央法規）の国家試験過去問題集の解説を執筆。科目は、精神保健福祉論。（複数箇所における記載となるため頁数は割愛）
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.本学特別講義講師	2013年7月11日	「こころの健康（メンタルヘルス）を考える」のテーマで、山陽女子高等学校の高校生対象の特別講義。
2.県立磯城野高等学校　研修講師	2009年11月19日	「福祉現場におけるバーンアウト（燃え尽き）とその予防」で、福祉高校教員に特別研修。
4 その他		
1.国家試験　精神保健福祉士　試験委員	2016年5月1日～2018年	精神保健福祉士法（平成9年法律第131号）第14条第1項及び第2項の規定に基づく精神保健福祉士試験委員の委嘱。
2.新聞　「受験ぜみなぁる」	2013年～2017年	福祉新聞 精神障害者の生活支援システム担当。福祉関係者が購読している新聞の国家試験対策連載の一コマとして問題作問を行った。
3.全国模試「日本精神保健福祉士養成校協会　精神保健福祉士全国統一模擬試験」作門	2011年～現在	「日本精神保健福祉士養成校協会　平成21～25年度精神保健福祉士全国統一模擬試験」の科目、精神保健福祉論の箇所について問題作門を行った。（国家試験作問委員の期間は中断。その後、とりまとめ委員）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.博士（保健福祉学）	2008年03月	久留米大学大学院
2.社会福祉士	2006年03月	登録番号　第78500号
3.ホームヘルパー2級	2004年02月	
4.精神保健福祉士	2002年03月	登録番号　第12203号
5.社会学学士	2001年03月	関西大学
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.日本トラウマティック・ストレス学会　理事	2023年～現在	トラウマ治療等を行う専門職団体の理事として広報委員を拝命。
2.日本精神保健福祉学会　理事	2022年～現在	精神保健福祉の学術団体の活動となる。
3.一般社団法人TICC　代表理事	2021年～現在	地域でトラウマインフォームドケアを普及させる団体の代表
4.大阪市犯罪被害者等支援条例制定懇話会委員	2019年10月2020年3月	犯罪被害者等支援条例の検討
5.警察庁・交通事故被害者サポート事業検討会委員	2019年~現在	交通事故被害者の多角的な支援施策に関与する委員
6.内閣府・性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの相談体制強化に向けた調査検討会委員	2019年~現在	性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの調査等に関与。
7.兵庫県・地域安全まちづくり審議会委員	2018年~現在	兵庫県の犯罪被害者等支援を含めた地域安全まちづくりを検討する委員。
8.NPO法人ひょうご性暴力被害者支援センター　理事	2017年～現在	性暴力被害者支援センターの理事
9.司法精神保健福祉委員会　副委員長	2016年～2024年	公益社団法人日本精神保健福祉士協会　の委託を受けて行う、委員会活動。
10.精神保健福祉士国家試験　試験委員	2016年～2018年	年一回冬に実施されている精神保健福祉士の国家試験問題を作問する委員。
11.発達臨床心理学研究所研究員	2014年～2019年	地域貢献の一環として、犯罪被害者ケアを研究所の総合心理相談室で行う。（不定期）

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
12.西宮市障害者介護給付費等審査会委員	2013年～現在2019年	西宮在住障害者の福祉サービスの利用可否に関わる審査会委員（約1回／月）
13.日本トラウマティック・ストレス学会　被害者支援委員会　副委員長	2011年～現在	日本トラウマティック・ストレス学会（JSTSS）（不定期開催）
14.兵庫県こころのケアセンター主任研究員（非常勤）	2011年～2012年	兵庫県の自殺予防対策の主任研究員として関与。
15.NPO法人大阪被害者支援アドボカシーセンター 専門支援員・民間被害者相談員	2010年～現在	大阪府公安委員会指定（2回／月）
16.福祉現場におけるメンタルヘルス検討会構成員	2009年～現在	NPO法人大阪障害者センター主催の検討会（1回／隔月）
17.内閣府犯罪被害者等施策推進室（委員委嘱）	2008年～2009年	犯罪被害者支援ハンドブック作成委員会ワーキング・チーム委員（委嘱）（1回／月）
18.PTSD構造化面接尺度認定査定者	2006年～現在	PTSD構造化面接尺度Clinician-Administered PTSD Scale for DSM-IV(CAPS)：認定査定者（日本トラウマティック・ストレス学会理事承認）
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.共生社会のための精神医学	共	2024年	中央法規	790ページある竹島正先生監訳の書籍。「トラウマとその影響」の翻訳と、「トラウマインフォームドケアって知っていますか？」の執筆を分担した。
2.図解でわかるソーシャルワーク	共	2023年	中央法規	ソーシャルワークに関連する知識・理論が網羅的にわかる超入門書である。筆者は、犯罪被害者支援、DVについてまとめている。
3.トラウマインフォームドサポートブック：犯罪、虐待、いじめ、DV、災害などの被害者支援のために	共	2023年	中央法規	被害者の支援には、トラウマインフォームドケア(トラウマを理解し配慮してかかわること)が求められる。本書はトラウマの基礎知識のほか、事例でさまざまな被害者支援のノウハウを収載している。
4.『トラウマの伝え方』	共	2021年	誠信書房	「第13章　支援者支援：トラウマ・インフォームドケア理解の心理教育」を担当した。
5.大岡由佳「支援体制が不十分な自治体の被害者窓口」	単	2020年	被害者が創る条例研究会.p30.	『すべてのまちに被害者条例を　第3版』（監修：諸澤英道）の一部執筆
6.大岡由佳「犯罪被害者支援とメンタルヘルス」	単	2019年	中央法規	『精神保健医療福祉白書』2018/2019.p50.
7.「被害者（犯罪被害にあった人）のこと知っていますか／加害者（犯罪をした人）のこと知っていますか」（小冊子）	共	2019年	公益社団法人日本精神保健福祉士協会 発行.p2－6.	大岡由佳他、日本精神保健福祉士協会司法精神保健福祉委員会にて作成した冊子。被害と加害のことを表裏から書いたユニークな小冊子である。
8.『すべてのまちに被害者条例を　第3版』	共	2019年	被害者が創る条例研究会.p30.	（監修：諸澤英道）のブックレット。大岡由佳は、「支援体制が不十分な自治体の被害者窓口」について寄稿した。
9.「市町村における相談援助システム（第6章1節）」	共	2018年	中央法規	『新・精神保健福祉士養成講座7　精神障害者の生活支援システム第3版』の一部として記載したもの。
10.「犯罪被害者の精神保健」	共	2018年	中央法規.（第8章　第3節）	『新・精神保健福祉士養成講座　精神保健の課題と支援　第3版』精神保健福祉士養成の教科書として使用している本となる。その一部を執筆。
11.「犯罪被害者支援とメンタルヘルス」	共	2018年	『精神保健医療福祉白書』中央法規. 2018. 50.	精神保健医療福祉に絡む第一人者がそれぞれの分野について概要をまとめた白書である。筆者は、「犯罪被害者支援とメンタルヘルス」について明記した。
12.『平成28年度地方公共団体における犯罪被害者支援総合対応窓口調査報告書』	共	2016年	ドキュメントセンター	大岡由佳・伊藤冨士江著.p1-46.　全国における地方公共団体の犯罪被害者支援総合対応窓口の調査を行った結果をまとめたものである。そこから、今後の犯罪被害者支援の展望について論じた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
13.『犯罪被害者等相談支援マニュアル　はじめて担当になったあなたへ』	共	2016年	大岡由佳・伊藤冨士江監修:プリントパック.p1-95.	地方公共団体の犯罪被害者等相談対応窓口の職員に向けて執筆した、相談支援のマニュアルである。地方公共団体の職員のみならず、犯罪被害者に接する、警察や民間被害者支援団体においても有用なものとなっている。
14.「犯罪被害を受けた子どものための支援ガイド」	共	2016年	金剛出版	子どもが遭遇する虐待、いじめ、性被害、ヘイトスピーチ等に遭遇した際にどのようにケアを行うべきかについて書かれたものである。全体の監訳を行った。
15.「スクールソーシャルワーク実践技術」	共	2015年	北大路書房	子どもの支援に必要なスクールソーシャルワーク実践にあたって必要な知識、「心身の健康に関わる法律・制度と諸問題（10章5節）」について執筆した。米川和雄編者。（担当P309-316.）
16.「犯罪被害者とメンタルヘルス」	共	2014年	日本精神衛生会	『こころの健康シリーズVI　格差社会とメンタルヘルス』の一部を執筆。近年のメンタルヘルス問題の一つとして、犯罪被害者問題を取り上げた。DV、児童虐待、ストーカー等の近年増加し続ける犯罪についても取り上げた。
17.「人を育てる、組織を育てる」	共	2013年	NPO法人大阪障害者センター「福祉現場のメンタルヘルス検討会」	障害者施設におけるメンタルヘルス不調者への労務管理ガイドラインである。管理職、中間管理職がメンタルヘルス問題にどのように対処していくべきかについて論じた。大岡由佳監修（担当第１章～第３章p1-83）
18.「障害福祉現場で働くためのメンタルヘルスハンドブック－職場でおしつぶされそうなあなたへ　しんどいって言えますか？」	共	2013年	かもがわ出版	編集　大阪障害者センター・福祉現場のメンタルヘルス検討会　一部執筆 数年間にわたって大阪の障害者施設現場職員とともに検討を重ね、その実績を踏まえて、現場の職員対象に作成したメンタルヘルスハンドブックである。筆者の担当は、こころの不調により休職した後の復職支援についての部分である。（担当第３章p56-65）
19.「ソーシャルワーク演習のための88事例－実践につなぐ理論と技法を学ぶ」	共	2013年	中央法規	編集　田中英樹、中野伸彦　一部執筆 ソーシャルワーク実践において遭遇するはずの様々な事例について紹介したものである。筆者の担当部分は、学生らが事例を通してトラウマや自殺後のメンタルヘルス等について考察し、今後に生かすことができるよう工夫を凝らしたものである。（担当p146,p152）
20.「診療所の安全管理対策－事故やトラブルを未然に防ぐために」	共	2011年	プリメド社	大阪府保険医協会編で執筆を行った安全管理対策についての著書である。職員のトラウマにもなる暴力暴言対応の箇所について執筆。（担当p65-74）
21.「福祉現場のメンタルヘルス検討会:障害者施設職員のメンタルヘルス調査報告書－約1200人の職務・精神健康度調査から－」	共	2011年	NPO法人大阪障害者センター	科学研究費の成果として、障害者福祉現場の職員の参考資料として共同研究者と共に調査結果をまとめた。筆者は、報告書の主な執筆を行っている。（担当p4-90）
22.「児童相談所の専門性の確保のあり方に関する研究－自治体における児童福祉司の採用・任用の現状と課題」	共	2011年	子どもの虹情報研修センター	児童福祉現場における社会福祉士、精神保健福祉士の位置づけや、児童福祉現場の職員のメンタルヘルスに関わる部分について執筆。（担当p25-53）
23.「人／地域／社会がつながるために．－兵庫県自殺対策の推進に向けて(ブックレット)」	共	2011年	兵庫県こころのケアセンター	兵庫県こころのケアセンターの嘱託研究員として1カ年にわたり「自殺対策」についてソーシャルワークの視点で研究、政策立案。その一環として、兵庫県の自殺対策についてまとめた。（担当p1-174）
24.「被害者の支援.被害者支援における社会資源の活用」	共	2011年	全国被害者支援ネットワーク	「全国被害者支援ネットワーク初級・中級テキスト」の一部執筆。内閣府委託事業による日本で唯一の被害者支援についての現職対応のマニュアル。ソーシャルワーク部分についての執筆を行った。（担当第3章p610-620）
25.「特別支援教育大事典」	共	2010年	旬報社	特別支援教育をとりまく基本的な概念・用語から特別支援教育コーディネーターや障害児医学についての症状、診断、リハビリテーション等についてまとめた大事典である。（本人）は、精神保健福

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				祉についての複数項目を執筆。編集代表は茂木俊彦。（複数箇所における記載となるため頁数は割愛）
26.「英国の挑戦―いかにして子どもを虐待から守るのか―」	共	2010年	帝塚山大学出版会	児童虐待に対して、英国がどのような対策を講じてきたかについて、英国の調査報告等を訳しまとめたものである。筆者は、柏野健三、相川貴文、大岡由佳、才村眞理、杉本正、野口晴利、渡辺嘉久。（共同担当p1-137）
27.「こころのケアとサポートの教育」	共	2009年	帝塚山大学出版会	「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（GP）の成果として出版された著書である。（本人）は、第9章「DV被害者の社会福祉実践から考える」でDV女性の生活支援について論じた。また、第10章「犯罪被害者への支援活動」において、現在の被害者支援の実態について論じた。編集は、蓮花一己、三木善彦。(担当p229-252)
28.「被害者支援中級テキスト」	共	2008年	NPO法人 犯罪被害者支援ネットワーク	犯罪被害者支援に必要な法的問題から被害者の心身の不調、社会経済問題、支援の方法について論じた包括的な支援員マニュアルである。「被害者支援における社会資源の活用（含む紹介の技術)」を担当。ソーシャルワークの立場から、犯罪被害者相談機関で相談を受ける相談員を想定し、支援の具体的な進め方や社会資源のコーディネート機能を中心に論じた。編者は、山上皓・大久保恵美子。（担当p200-210）
29.「看護職員等のトラウマケア」（小冊子）	共	2007年	こうわ印刷	医療現場等で起こる暴力・暴言、また自殺の目撃などを経験した職員の対処方法についてまとめたものである。平成18年度厚生労働科学研究費補助金こころの研究科学研究事業「援助者の被るトラウマティック・ストレスのケア」成果物。筆者は、大岡由佳、佐藤亜紀、高田智佳、田中みとみ、中島純子、能勢麻美子、開浩一、矢島潤平。（担当p1-14）
2 学位論文				
1..博士論文「心理社会的視点からみたトラウマとトラウマケアの研究」	単	2008年		トラウマ問題をその被害者の生活問題と捉え、ソーシャルワーカーの視点からその状況に対してどのようにアプローチができるかについて論じたものである。学校・職場・医療現場・NPOをフィールドとして進めてきた量的・質的研究と実践の総大系となっている。今後具体的なトラウマの予防法や介入法をソーシャルワーク手法として確立していくことが課題である。（p1-499）
3 学術論文				
1.トラウマインフォームドケア教材開発の実装	単	2024年	日本トラウマティック・ストレス学会 編 22 (1), 58-65, 2024	著者は、大岡 由佳, 大江 美佐里, 毎原 敏郎, 柳田 多美 。トラウマインフォームドケアの地域実践をおこなってきた成果の一つとして教材開発の経緯と結果をまとめた。
2.「トラウマインフォームドケアの視点から見た精神障害者のトラウマ」（査読有）	単	2023年	精神保健福祉学 第10巻1号:53-60	精神障害者は、精神科医療につながる前にトラウマを負っている率が一般よりも高く、そのような精神障害者が、隔離や拘束状況におかれることで、新たなトラウマを負ってしまう。加えて、トラウマへの理解がない職員の対応によって、かつてのトラウマ体験が賦活し、行動化を抑制される中で再トラウマ化していくことを指摘した。
3.「司法領域にも必要なTIC(トラウマインフォームドケア)の視座」	単	2023年	罪と罰 61 (1), 75-86, 2023-12	司法分野において、トラウマを見る視点を持つことで、よりトラウマを有する人々への二次被害が軽減するかについて論じている。（査読有）
4.犯罪被害者等の人権：被害回復のサポートはどうあるべきか	単	2023年	研究紀要 / 兵庫県人権啓発協会研究推進委員会 編 25 6-9, 2023-09	犯罪被害者等がどのような状況に置かれており、人権が守られていないのか、そこからどのように回復が目指されるのかについて論じた。（査読有）
5.「トラウマ臨床におけるソーシャルワークの協働(トラウマとソーシャルワーク)」	単	2023年	精神療法 49 (4), 538-542, 2023-08	ソーシャルワークにおけるトラウマ臨床とは何を指すのかについて論じた。
6.ソーシャルワーク領域におけるトラウマインフォームドケアの実践	単	2022年	精神科 = Psychiatry / 精神科編集委員会 編 41 (3), 442-448	トラウマインフォームドケアがどのようにソーシャルワーク領域で必要になっているかについて論じた。
7.逆境的小児期体験の	共	2022年	学校安全推進セン	大岡，由佳，肥後，有紀子，岩切，昌宏。逆境的体験をした2人の成

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
影響-成人2事例の語りから （査読有）			ター紀要 2 46-55	人の事例から、如何にその影響がその後に及んでいるかについて論じた。
8.犯罪被害者等による制度・サービス利用と被害回復 ―全国オンライン調査の結果から	共	2022年	被害者学研究 31号	共著者は、大岡由佳 伊藤冨士江 平山真理 大塚淳子 。 全国調査の結果をまとめた。
9.犯罪被害者等支援と福祉連携	単	2022年	精神科Resident Vol3.No.2 2-3.	依頼執筆した医学雑誌の論文
10.絵という表現活動を通して見えてくる子ども時代のトラウマ-トラウマインフォームドケアの実践-（査読有）	共	2021年	学校安全推進センター紀要 1,43-54.	共著者は、大岡，由佳，岩切，昌宏，瀧野，揚三，浅井，鈴子，毎原，敏郎
11.ソーシャルサポートと複雑性PTSD（特集 複雑性PTSDと接する：さまざまな治療的アプローチ）	単	2021年	精神療法 47（5），632-634，2021	複雑性PTSDの方はそもそもソーシャルサポートが限られているが、そのメカニズムと今後に展望について論じた。
12.犯罪被害者の人権	単	2021年	ひょうご人権ジャーナルきずな 11月号	市民に分かりやすく伝えるもの
13.これからの更生保護に必要な視点―トラウマインフォームドケア―.特集：これからの更生保護事業.	単	2021年	更生保護 令和2年12月号.	TICについての基礎的事項を明記。
14.絵という媒体を通じて見えてきた精神障害をもつ人々のトラウマ―トラウマインフォームドケアの実践活動から―（査読有）	単	2021年	人間学研究33，2021.	12回のアートワークショップを行った結果をまとめたもの
15.安全・安心なトラウマインフォームドな医療現場を目指して―看護師のメンタルヘルス調査の結果から―.	共	2020年3月	人間学研究32号.	大岡 由佳,毎原 敏郎,箕浦 洋子による共著。総合病院の看護師らを対象に行ったメンタルヘルス等の調査結果をまとめた。
16.学校におけるトラウマインフォームドケアの実践（第Ⅱ報）― X市の教員全体を対象にした性被害・性加害研修の結果から―.	共	2020年3月	学校危機とメンタルケア．第12巻，33-44.	大岡由佳,岩切昌宏,瀧野揚三,浅井鈴？,毎原敏郎,？村有？による共著。ある市の小・中・高等学校の生徒指導教諭全体へTIC研修を行い、その効果検証を行った結果を掲載した。
17.学校におけるトラウマインフォームドケアの実践（第Ⅰ報）―中学校への介入研究の結果から―.	共	2020年3月	学校危機とメンタルケア.第12巻:25―32.	浅井鈴子,岩切昌宏,大岡由佳,瀧野揚三,中村有吾,毎原敏郎による共著。学校にTIC研修等の実践を行った結果、どのように学校が変容していったかについて過去3か年の介入研究の結果をまとめた。
18.サインの発信や受信が困難な子ども等への犯罪被害者等支援に関する研修(支援者支援)の重要性.	共	2020年1月	精神保健福祉,51(1)：96.日本精神保健福祉協会.	大塚 淳子，大岡 由佳，寺川 太佳子による共同発表。子どもへの犯罪被害者等支援のあり方として、その研修の在り方について発表した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
19.”人-地域-社会”を結ぶトラウマインフォームドケアの実践.	共	2020年1月	精神保健福祉,51(1):83.	大岡 由佳，池田 裕美枝，大江 美佐里，周藤 由美子，田口 奈緒，中山 健夫，主田 英之，毎原 敏郎，矢野 阿壽加によるRISTEX研究事業の共同研究報告を行った。
20.【性暴力被害者への支援　現状と課題】地方公共団体における犯罪被害者支援総合対応窓口調査報告から(解説/特集).	単	2019年9月	地域保健,50(5):12-15	本邦の被害者支援の実態について、地方公共団体における犯罪被害者支援総合対応窓口調査報告から論じた。
21.「犯罪被害者支援における多機関連携の実態」（査読有）	共	2018年	『厚生と指標』2月号,66（2）:6－12.	伊藤冨士江・大岡由佳著。犯罪被害者関連機関である警察、民間被害者支援センター、医療機関、地方公共団体の犯罪被害者等担当窓口、女性センターに行った調査結果をまとめたものである。より積極的な他機関連携の必要性が浮かび上がった。
22.我が国の性暴力防止に向けての包括的対策―米国の性暴力防止技術パッケージから見えてくる予防方策―	共	2017年	学校危機とメンタルケア，9，pp.82-102.	著者は、大岡由佳・岩切昌宏。アメリカの性暴力に関しての包括的対策についてまとめられたものについて、概略をまとめ、本邦における課題を検討した。
23.「我が国の性暴力防止に向けての包括的対策―米国の性暴力防止技術パッケージから見えてくる予防策―」	共	2016年	学校危機とメンタルケア第9巻、pp.82-102	大岡由佳・岩切昌宏.　アメリカの性暴力防止のガイドラインをもとに、本邦の性暴力防止の対策について検討を加えたものである。性暴力のケアについては、近年広がりをみせつつあるものの、予防の視点をもっともって社会が動いていく必要性を指摘した。
24.「トラウマ例に対する早期介入と支援.」	共	2016年	精神医学58(7)pp.605-612	前田正治・野坂祐子・大岡由佳.　トラウマ例に対する早期介入の方法として、学校、民間被害者支援団体の取り組みについて掲載したものである。筆者は、民間被害者支援団体の部分を執筆した。
25.犯罪被害者等の実態から見えてくる暮らしの支援の必要性―511名の犯罪被害者等のWEB調査実態調査結果から―（査読有）	共	2016年	「厚生の指標」第63巻第11号、23-31.	犯罪被害者等における苦悩の程度や生活の実態・支障を把握し、今後の犯罪被害者等支援の在り方を模索するため、WEB調査を実施し、計511名の犯罪被害者等から回答を得た。犯罪被害者等の精神的苦悩は深刻であり，被害者の暮らしを支える制度・サービスの拡充・広報の充実とともに，相談を受けた際の適切な相談支援が行える地方公共団体等の体制整備が求められていた。共著者は、大岡由佳、大塚淳子、岸川洋紀、中島聡美。
26.「交通事故被害者の実態―WEB調査結果から心理社会的支援を考える」（査読有）	共	2016年	武庫川女子大学発達臨床心理学研究所紀要．17号、19-26.	413名のWEB調査の結果から、稿つ事故被害者の精神的状況等について論じたものである。若年であるほど、メンタルヘルス状況は悪く、支援が必要であることが推定された。
27.司法と精神保健福祉士の連携の深まりとこれからの課題	共	2015年	『精神保健福祉』vol.46,No.4,通巻104号:p304-315.	大岡由佳他.　近年、司法領域に、ソーシャルワーカーが活躍するようになってきたが、その実態を、今後の展望について座談会形式でまとめたものを掲載されたものである。
28.被害者の“声”に耳を傾けよう～犯罪被害者支援における精神保健福祉士のかかわりについて～	単	2015年	『精神保健福祉』vol.46,No.3,通巻103号,p256.	被害者支援について発表したものをまとめたものである。
29.「性犯罪被害児・者の実態とその課題－民間被害者支援団体の調査結果を踏まえて－」	共	2015年	学校危機とメンタルケア vol.7:55-68.	民間被害者支援団体が過去5ヵ年の間にうけた性犯罪被害児・者の101ケースについてのレトロスペクティブ研究である。被害児・者のhelp-seekingの問題や、他機関連携の必要性を述べた。共著者は、大岡由佳、野坂祐子、中島聡美、岩切昌宏。
30.「患者・家族から暴言・暴力を受けたスタッフのケア」	単	2014年	看護主任業務Vol.23No.6、p41-45.	悩み・問題を抱えたスタッフのこころのマネジメントの一環として、病院職員がトラウマティックな体験をした時の対応について論じたものである。
31.「トラウマ臨床とソーシャルワーク」	共	2013年	トラウマティック・ストレス 11(1)p43-50.	トラウマ臨床現場におけるソーシャルワーカーの任務と課題について論じたものである。事例を紹介したのちに、他専門職といかに連携し協働してケアに携われるかについて考察を行っている。共著者

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				は、大岡由佳、前田正治、丸岡隆之、髙松真理。
32.「自殺企図者インビューから見えてくる自殺未遂者の実態と今後の対応.」	単	2011年	兵庫県こころのケアセンター研究報告書-平成22年度版-、p17-34.	自殺企図者の実態を把握すべく、自殺未遂で救急医療センターで入院中の患者にインタビューを行い、その結果をまとめ、今後の対応について論じた。
33.「ホームレス化する精神障害者を地域でどう支えるか？」（査読有）	単	2011年	「精神保健研究」56号、p51-58.	精神保健福祉問題をもった困窮した障害者が、日本社会にホームレスとして出現し始めていることを指摘。海外の状況も含めて、今後の対策について論じた。
34.障害者福祉現場の職員が遭遇する出来事とメンタルヘルス.（査読有）	共	2010年	「心的トラウマ研究」6、p41-52.	障害者福祉現場の職員のメンタルヘルス不全と、その対策について論じたものである。共著者は、大岡由佳、山本耕平、峰島厚、加藤寛。
35.Working Conditions and Mental Health Among Staff in Japanese Welfare Facilities for People with Disabilities.	単	2010年	SPA(Social Policy Association) Conference,UK, booklet p94.	本邦における障害者福祉現場の変遷と、現在の置かれている状況についてメンタルヘルスの視点から論じたものである。
36.「重症トラウマ例に対するチーム・アプローチ-リハビリテーションの視点から」（査読有）	共	2010年	「精神療法」36(3)、p372-379.	PTSD患者についての、医療チームで関わった臨床について論じたものである。共著者は、髙松真理、前田正治、大岡由佳、内村直尚。3番目の筆者であり、事例等関与。
37.「市町村における児童虐待相談の実態－市町村における被虐待児事例のレトロスペクティブ調査の結果から」	共	2010年	帝塚山大学出版会 第6号、p1-13.	ある市町村の虐待相談の実態を調査し、そこからコミュニティにおける児童虐待へのケアや支援の方向性を模索した。児童虐待に対するトラウマケアを含めた支援を考えていく際に、トラウマを負った後の被虐待児に対しての施設等ケアのみならず、虐待親を含めコミュニティ全体に働きかける予防的アプローチや生活支援の方策も検討していかねばならないことが明らかとなった。共筆者は、大岡由佳、中村又一、杉本　正。
38.「診療所における患者からの暴言・暴力等に対する安全管理対策」	単	2009年	「大阪保険医雑誌」No516、p36-39.	安全管理体制の確保を巡っては、院内感染や医薬品や医療機器の安全確保といった視点が取り上げられることが多く、医療機関でおこる暴言・暴力等行為については対策が練られていないことも多い。患者・家族からの暴力等行為のインシデントやアクシデントについて、それらがスタッフに及ぼす心身の影響の側面からその対応・対策を検討した。
39.「自傷行為を取り巻く状況と心理社会的介入の可能性」	共	2009年	「エマージェンシー・ケア」Vol.22No.10、p65-69.	「自殺3万人の時代に救急医療ができることについて」の連載記事として自殺企図のケースとその考察を行ったものである。共同執筆者と議論したケースについて概要をまとめ、考察を加えた。自殺予防・対策には関係機関の連携と本人が秘めた力を引き出す支援が大切であることを論じた。共筆者は、大岡由佳、上山崎悦代。
40.「司法福祉における犯罪被害者支援」（実践報告）（査読有）	単	2009年	総合社会福祉研究所「総合社会福祉研究」第35号、p99-107.	医療・福祉領域において、増え続ける虐待やDV、性被害を含む犯罪被害者の存在を挙げ、その支援実態について司法福祉の視点から論じたものである。
41.「生活のしづらさを抱える慢性PTSDをもつ者へのケア－ソーシャルワーカーの視点から－」（査読有）	単	2009年	日本トラウマティック・ストレス学会「トラウマティック・ストレス」第7巻第1号、p60-71.	本発表では、慢性PTSDを抱える女性の症例を報告し、司法の絡む精神疾患を抱えた者にどのような精神科リハビリテーションが必要であったかについて論じた。生活者をサポートする視点と、被害によってディスパワーされた被害者をエンパワーする姿勢が必要であった。
42.「精神障害をもつ路上生活者の自立支援」（研究ノート）	単	2009年	「福岡県社会福祉士会研究誌」2号、p85-91.	社会保障制度最後のセーフティーネットによってすら生活が保障されないホームレス状態の人々がいる。ここでは、精神的な問題を有することによってホームレス状態に陥った人々への支援活動から、その実態と今後の施策を展望している。
43.「学校災害－PTSD患者に対する後方視的	共	2008年	星和書店「精神科治療学」第23巻7	過去10年間のPTSD患者例を対象に生活状況や支援の現状を含めて調査し報告した。対象者の精神科受診は他の身体疾患のように早期の

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
研究ー」（原著）（査読有）			号、p865-875.	受診には至らず、引越や経済的困難などの社会生活上の問題も有していた。共筆者は、大岡由佳、前田正治、大江美佐里、丸岡隆之、古賀章子、高松真理、原口雅浩、辻丸秀策。
44.「精神科臨床現場における被害者・被災者支援の現状と課題～大学病院の過去10年間のPTSD患者の調査結果から～」（査読有）	共	2008年	医学書院「精神医学」第50巻5号、p455-464.	一大学病院における過去5年間の児童思春期例で、学校の事件事故に遭遇してPTSDと診断された子どもの特徴を考察した。子どもは症状の呈し方が様々であり、症状に応じた個別対応が必要であることが明らかになった。共筆者は、大岡由佳、丸岡隆之、前田正治、辻丸秀策。
45.「被害者の感情とニーズに関する一考察」	共	2008年	久留米大学文学部紀要「社会福祉学科編」8号、p81-89.	犯罪被害等に遭遇した際の被害直後の感情や、被害後の支援ニーズについて調査した。被害者等で何らかのPTSD症状を呈している者は、「誰かにいてほしい」と思わず、「人に会いたくない」状態になっている状況が明らかになった。共筆者は、大岡由佳、辻丸秀策、大西良、ナタリア・ポドリヤク、藤島法仁、末崎政晃、福山裕夫。
46.「ワークプレイス・トラウマ受傷後のケア状況とその課題－病院における暴力等後の心のケア体制から考える－」	共	2008年	久留米大学文学部紀要「社会福祉学科編」8号、p71-80.	暴力等発生後の職員の心のケアについて明らかにするために、積極的に暴力対策を行っている機関の視察を行い、そこから見いだされる本邦においてのあるべき心のケア体制とその課題について考察した。専門職のケアが必要となるが、同時に、同職種のピアサポートが重要であると考えられた。共筆者は、大岡由佳、前田正治、辻丸秀策。
47.「学校に対する危機介入～ソーシャルワーカーの役割をめぐって～」（研究ノート）（査読有）	共	2007年	相川書房「ソーシャルワーク研究」第33巻1号、p29-39.	人災が起きた現場へのアウトリーチ支援として、ソーシャルワーカーがどのような役割を果たしたかについて考察している。加えて、トラウマケアに関わる上でソーシャルワーカーに求められていることについても言及した。共筆者は、大岡由佳、丸岡隆之、前田正治、辻丸秀策。
48.「犯罪被害者等の現状とその支援」	共	2007年	久留米大学文学部紀要「社会福祉学科編」7号、p43-56.	犯罪被害者を取り巻く現状について、1次被害、2次被害、3次被害に分けて概説したものである。また、近年行われている被害者への支援体制についても論じ、今後あるべき被害者支援施策について論じた。共筆者は、大岡由佳、辻丸秀策、大西良、ナタリア・ポドリヤク、藤島法仁、末崎政晃、津田史彦、福山裕夫。
49.「精神科看護師が職場で被るトラウマ反応」（原著）（査読有）	共	2007年	医学書院「精神医学」第49巻2号、p143-153.	患者等からの暴言暴力の経験が対人援助職への精神的被害につながっているのではないかとの疑問から調査に踏み切ったものである。看護師の経験した衝撃的出来事は、身体的暴力・言語的暴力・自殺の目撃等であり、それらの経験によってメンタルヘルスや対処行動が悪化させられていた。共筆者は、大岡由佳、前田正治、田中みとみ、高松真理、矢島潤平、大江美佐里、金原伸一、辻丸秀策、前田久雄。
50.「肢体不自由者に対する学生の意識調査」	共	2006年	久留米大学文学部紀要「社会福祉学科編」6号、p97-105.	学生の障害者接触の程度や援助度等に関して質問紙によるアンケートを実施した。結果は、障害者に対して手助けしたいと思う学生は6割おり、共感感情によるものであった。実際に障害者に接触することが援助感育成に重要であることが明らかになった。共筆者は、大岡由佳、原田幹子、田中智子、ナタリア・ポドリヤク、辻丸秀策、福山裕夫。
51.「消防隊員のメンタルヘルスについての実態調査報告」（紀要）	共	2006年	久留米大学文学部紀要「社会福祉学科編」6号、p85-95.	本論文では、消防隊員のメンタルヘルスの全体像を把握すべく、惨事ストレスを中心に調査を実施した結果である。対象は、A市481名の現役消防隊員で、回答してもらった質問紙に関しては、多角的に統計処理し結果検討を加え、報告した。共筆者は、大岡由佳、辻丸秀策、大西良、福山裕夫、矢島潤平、前田正治。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.「トラウマインフォームドなケアシステムの社会実装」	単	2024年	総合地球環境学研究所	第4回T3 Earth Forum　において、「気候変動とトラウマ」についての話題提供を行った。
2.「TIC （トラウマインフォームドケア）の視点」	単	2022年	日本精神神経学会	「外傷性ストレスの精神療法ファーストステップートラウマから回復する道筋をどう伝えるかー」のテーマにおいて、TICについて話題提供させて頂いた。
3.ソーシャルワーク領	単	2021年	第 18 回日本うつ	「ソーシャルワーク領域におけるＴＩＣ実践の一例」として、トラ

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
１．学会ゲストスピーカー				
域における ＴＩＣ実践の一例			病学会総会 第 21 回日本認知療法・認知行動療法学会	ウマへの地域実践について発表した。
4.「相談支援、地域ネットワークづくり」	単	2015年	全国精神保健福祉会連合会（みんなねっと）.第8回全国精神保健福祉家族大会	精神障害者のご家族対象のシンポジウムにて発表を行ったものである。 .2015.9.29（福岡国際会議場）
5.子どもの被害者への急性期介入	共	2014年	日本トラウマティック・ストレス学会	シンポジストとして発表。民間支援団体の犯罪被害者の実態の調査から、特に子どもに焦点をしぼって、如何に急性期介入が行われているか、また課題はどこにあるかについて発表したもの。2014.5.18（福島,ふくしまコロッセ）
２．学会発表				
1.「障害者等の性暴力被害者支援」	単	2023年	日本トラウマティックストレス学会	「性犯罪・性暴力被害者支援の現在と未来」シンポジウムの座長と発表者として被害者支援について論じた。
2.「障がい者の被害者支援 － 潜在化した性 暴力 性被害に焦点 を あてて」	単	2023年	日本社会福祉学会第71回秋季大会	被害者の なかでも 、 性暴力 ・ 性被害に 焦点を 当てつつ 、 障がい 者の 性暴力 ・性被害 の 実態と その 課題や展望を 検討した。
3.ソーシャルワーカーによる 被害者支援 － 被害者支援連携事業の取り組みから	共	2022年	日本社会福祉学会第70回秋季大会	筆者らが 地域実践をしている 被害者支援連携事業 の 実際 からソーシャルワーカーによる被害者支援とは どのような ものなのか、また どうあるべき なの か、そして 、どのよう な課題がありどのような展望をもつとよいかについて発表した。
4.犯罪被害者支援の必要性－加害者支援の対にある被害者支援への福祉専門職の関与に向けての教育の在り方－	単	2021年9月12日	日本社会福祉学会 第69回秋季大会 口頭発表B／社会福祉教育	基盤C：課題番号（18K02097）（『「被害者の視点を取り入れた教育」の実践に関する研究』の研究成果
5.Sharing Perspectives Connecting Perpetrators and Victims-Trauma Informed Care	単	2021年6月18日-30	The 12th Annual Conference of the Asian Criminological Society (ACS2020)	日本における被害者の支援をどのように伝えていける可能性があるかについて、国外に発信
6.犯罪被害者等の制度・ サービス利用と被害回復	共	2021年6月5日	日本被害者学会第31回学術大会	共著者は、大岡由佳　伊藤冨士江　平山真理　大塚淳子
7.「トラウマインフォームドな実践―アートでみる精神障害者のトラウマ」	単	2020年	第19回日本トラウマティック・ストレス学会.	オンデマンド配信.2020年8月.
8.「絵という媒体と通して見えてくる精神障害者らのトラウマ」	単	2020年	第56回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会・第19回日本精神保健福祉士学会学術集会.	オンデマンド配信.2020年9月.
9.「障害者施設職員のメンタルヘルス調査からみる労働状況（2）－いじめ・セクハラ・パワハラの実態に焦点をあてて」	共	2019年9月	日本社会福祉学会（於：大分大学）	障害者施設の職員調査をした結果から見えてきた、施設職員のメンタルヘルスの状況と、それに伴う労働状況を報告した。
10.「”人-地域-社会”を結ぶトラウマインフォームドケアの実践. 」	共	2019年8月	第18回日本精神保健福祉士学会学術集会.名古屋国際会議場.	大岡由佳が代表研究者であるRISTEX助成の研究実践課題「”人-地域-社会”を結ぶトラウマインフォームドケアの実践. 」について報告した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
11.「犯罪被害者支援の多機関連携調査の実態からみえてくるもの」「犯罪被害者の権利擁護とサポート」	共	2019年6月	第18回日本トラウマティックストレス学会.京都テルサ.	大岡由佳,大塚淳子，伊藤冨士江による共同発表。警察や民間被害者支援団体等に犯罪被害者支援に関する質的調査を行った結果を報告した。
12.「外因死の遺族支援に向けたアクションリサーチ（２）外因死遺族ケアのためのリーフレット作成.」	共	2018年9月25日	日本心理学会	発表者は、川野健治、伊東由康、大岡由佳、河上友信、齋藤絢子。自殺の外因子研究の一環として発表したものである。
13.「犯罪被害者支援における実質的支援の必要性――TIC（トラウマインフォームドケア）の視点から」	共	2018年9月9日	日本社会福祉学会第66回秋季大会.	発表者は、大岡由佳、伊藤冨士江、大塚淳子。犯罪被害者の他機関連携調査の結果の一部をまとめたものである。
14.「司法分野に関与する精神保健福祉士の支援の現状と課題」	共	2018年8月19日	日本司法福祉学会第19回全国大会 東海大会自由研究発表	発表者は、大岡由佳、大屋未輝、山田真紀子。日本精神保健福祉士協会の司法精神保健福祉委員会にて行った全国規模の調査の結果をまとめたものである。
15.「精神科領域におけるトラウマインフォームドケアの必要性」	単	2017年9月16日	第53回公益社団法人日本精神保健福祉士協会全国大会/第16回日本精神保健福祉士学会学術集会	発表者は、大岡由佳。地域に住む精神障害者が精神科医療において受けたトラウマとその影響について検討を行ったもの。（グランキューブ大阪）
16.「犯罪被害者支援における多職種連携－アセスメントの視点から―」（	共	2016年	第15回日本トラウマティック・ストレス学会	コーディネーター兼 座長.　犯罪被害者支援の技術が多く取り上げられることが多かった犯罪被害者支援委員会のシンポジウムにおいて、多職種による連携なくして被害者支援が発展していかないことを指摘し、企画したシンポジウムであった。2016.6.21.（仙台国際センター展示棟.）
17.「自治体における犯罪被害者等相談支援.」	共	2016年	第15回日本トラウマティック・ストレス学会.	口頭発表．稲吉久乃・大岡由佳．犯罪被害者支援について多職種・多領域から、支援時のアセスメントを中心に討議するシンポジウムであった。そのなかで、自治体の支援について発表したものである。　2016.5.21.（仙台国際センター展示棟）
18.「犯罪被害者支援の現状―地方公共団体の総合的対応窓口に対する調査をもとに（1）」	共	2016年	日本社会福祉学会第64回秋季大会	口頭発表 大岡由佳、伊藤富士江．地方公共団体の犯罪被害者等総合的対応窓口の全国調査の結果について、発表を行ったものである。1報、２報に分けて報告した。　2016.9.11（佛教大学）
19.「犯罪被害者支援の現状―地方公共団体の総合的対応窓口に対する調査をもとに（2）－相談受理のあった60か所の調査結果－」	共	2016年	日本社会福祉学会第64回秋季大会	口頭発表 大岡由佳、伊藤富士江．地方公共団体の犯罪被害者等総合的対応窓口の全国調査の結果について、発表を行ったものである。1報、２報に分けて報告した。　2016.9.11（佛教大学）
20.「交通事故被害者のニーズとその支援に関する研究」	共	2016年	第5回日本精神保健福祉学会、口頭発表	大岡由佳，大塚淳子．交通事故被害者の実態調査から、被害者らがおかれている状況や、心理的状況について明らかにしたものである。また、そこから、被害者らが求めている社会への要望をあぶりだした。　2016.6.24.（沖縄大学）
21.「犯罪被害者が社会に求めているもの―犯罪被害者等ニーズ調査の結果から―」	単	2016年	日本司法福祉学会第17回全国大会、研究報告	犯罪被害者の自由記述部分の質的調査結果をまとめ、犯罪被害者等のニーズについて論じたものである。今まで、遺族の調査結果が多いなか、犯罪被害当事者の意見を多く含む結果であったので、有意義とのコメントを多数頂いた。2016.8. 28（甲南大学）
22.「民間被害者支援団体における支援」	単	2015年	第51回精神保健福祉学術集会.	民間被害者支援団体の支援の実態について発表を行ったものである。 2015.6.25.（ビックパレットふくしま）
23.「犯罪被害者等への	単	2015年	日本社会福祉学	511名の犯罪被害者等調査から、被害者の置かれている状況とその支

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
福祉的支援の必要性－511名の犯罪被害者等のWEB調査結果から－」			会．第63回秋季大会	援の必要性について発表したものである。　2015.9.20.（久留米大学）
24.「犯罪被害者支援における生活支援の必要性」	単	2015年	第14回日本トラウマティック・ストレス学会	犯罪被害者支援は、心理的支援から始まった経緯がある。しかしながら、近年、生活をどのように支えるかといった実質的な支援のニーズが高まってきており、それらの視点について報告したものである。　2015.6.21.（京都テルサ）
25.子どもの性犯罪被害者の実態－精神保健福祉的視点の必要性を考える	単	2014年	日本精神保健福祉学会	精神保健福祉的視点から見たときに、犯罪被害者支援の位置づけはどうなるのか、どのようなことが求められているのかについて、犯罪被害者の中でも子どもの性被害児・者に焦点を当て、支援の現場の実態から検証した。2014.6.27（名古屋,愛知淑徳大学）
26.犯罪被害者支援にソーシャルワークは必要か？	単	2014年	日本精神保健福祉学術集会	犯罪被害者支援の実情から、どのようにソーシャルワークが関与できるか検討した発表である。2014.6.21（埼玉,大宮ソニックシティ）
27.精神保健福祉現場における職員のメンタルヘルス調査から見えてくるもの	単	2012年	日本精神保健福祉学術集会	近年の障害者福祉現場における障害者支援従事者のメンタルヘルスを明らかにし、今後の対策について提案した。2012.6.23（熊本,熊本県立劇場）
28.障害者福祉施設におけるパワハラ・いじめとトラウマ症状についての一考察	共	2012年	日本トラウマティック・ストレス学会	科研費研究の成果でもある障害者施設におけるメンタルヘルスに絡めて、パワハラ・いじめの実態について検討したものを発表した。2012.6.9（福岡,あすばる）
29.自殺に傾いた者へのケアマネジメントの必要性	単	2012年	日本社会福祉学会	救急医療現場で入院中の患者への聞き取り調査の結果から、福祉専門職が検討すべき課題について発表。2012.10.21（兵庫,関西学院大学）
30.Working Conditions and Mental Health	単	2010年	Social Policy Association Conference	日本の障害者福祉現場の実情と課題について発表した。2010.7.5（England,University of Lincoln）
31.障害者施設職員の労働状況とメンタルヘルス対策	共	2010年	日本社会福祉学会	障害者施設が抱える精神的不調の課題について言及し、その対策の行方について発表した。2010.10.9（名古屋,日本福祉大学）
32.コミュニティにみる児童虐待相談―市町村における被虐待児事例の調査結果から―	単	2010年	日本トラウマティック・ストレス学会	A市の児童虐待事例139世帯の調査を行った。児童虐待ケースにおいては、貧困家庭が多いこと、多子の傾向にあること、虐待者自身の虐待経験やDV、精神的疾患が目立つこと等が確認された。市町村の児童虐待相談の特徴としては、法律改正に伴い相談件数が顕著に増加する傾向にあること、虐待分類としてネグレクトが多いこと等が挙げられた。2010.3.6（神戸,神戸国際会議場）
33.被害者支援におけるソーシャルワークの必要性　～犯罪被害者の臨床・研究活動から考える～	単	2009年	日本精神保健福祉士学会	精神保健福祉士の活動分野ではまだ新しい支援分野である犯罪被害者支援分野の支援について、その必要性について発表したものである。2009.6.13（静岡県,グランシップ）
34.市町村における被虐待児童の実態と求められるべき取組について	共	2009年	日本社会福祉学会	大岡由佳、中村又一、丹波史紀　市町村における被虐待児の特徴を明らかにし、どのような取り組みを行っていくべきかについて海外の例を用いながら示した。2009.10.10（東京,法政大学多摩キャンパス）
３．総説				
1.「精神保健福祉士と共有したいトラウマインフォームドケアの視点」	単	2022年	精神保健福祉 = Japanese journal of mental health social work : 日本精神保健福祉士協会誌 : JJMHSW 53 (4), 306-313	TIC自体は、ソーシャルワーカーにとって、近年まで知られていなかったことから、総説として論じた。
2.犯罪被害者とメンタルヘルス	単	2014年	日本精神衛生会「こころの健康シリーズⅥ　格差社	こころの健康シリーズの一環として、犯罪被害者のメンタルヘルスについて論じたものである。適切なケアの必要性として、誰かとつながることの重要性を説いている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
			会とメンタルヘルス」pl-8.	
3.「外傷後ストレス障害－ソーシャルワーク支援」	単	2011年	「精神科治療学」第26巻増刊号、p122-123.	「神経症性障害の治療ガイドライン」Ｉ-10の一部として、災害、事故や事件後に発症することのあるPTSDに罹患した者へのソーシャルワーク的支援の方法について論じた。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.座談会 精神保健福祉士に求められるトラウマインフォームドなアプローチとは：当事者との対話から考える	共	2022年	精神保健福祉 = Japanese journal of mental health social work : 日本精神保健福祉士協会誌 : JJMHSW 53 (4), 330-339, 2022-10	中村 舞斗，櫻井 むぎ，小川 るり，柏木 一惠，上野 陽弘，原 敬，大岡 由佳。筆者がコーディネートして行った座談会記録。
2.性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ 支援センターを対象とした支援状況等調査．（「調査結果の分析」部分執筆）	共	2020年3月	令和元年度 内閣府「性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの 相談体制強化に向けた調査」委託事業報告書. p29-31.	大岡由佳他の検討会委員で、調査のフレームから議論し、報告書までにまとめた結果を掲載した。筆者は考察部分を担当。
3.「特集 犯罪被害者支援の特化条例を全国の自治体に！」	共	2020年２月	被害者支援ニュース. 全国被害者支援ネットワーク発行.第31号.p2-3.	研究者の立場から、近年本邦で策定されていっている犯罪被害者等支援条例の優れた地方公共団体を選んでその理由を述べた。
4.精神科領域におけるトラウマインフォームドケアの必要性	単	2018年	「精神保健福祉」vol.49 No.1、p55.	
5.被害者支援・・・語られにくいけど身近に存在することを知っていますか？.	共	2016年	日本精神保健福祉士協会第52回全国大会・第15回学術集会フリースペース	大岡由佳・大塚淳子.被害者支援について精神保健福祉士が身近に感じてもらい対応してもらうことを意図したワークショップを開催した。　2016.6.16.（海峡メッセ下関）
6.「障害福祉現場における各事業所間のメンタルヘルスケアの支援体制のために（事業報告書）」	共	2015年	NPO法人大阪障害者センター「障害福祉現場のメンタルヘルス検討会」	2009年から、研究者と福祉現場職員等で検討会を行ってきた事業実績についてまとめたものである。.p5-23.
7.「就労支援に関する指標策定のための調査　報告書」	共	2015年	京都自立就労サポートセンター推進委員会　ワーキングチーム	大岡由佳他.全国のいくつかの自立就労サポートセンター利用者の属性とアンケート結果から、就労支援についてまとめた報告書である。京都府委託。　pl-52.
8.犯罪被害者支援にソーシャルワークは必要か？～民間支援団体の性被害者支援の現状から見えてくる課題～	単	2014年	「精神保健福祉」vol.45 No.3、p232-233.	民間支援団体の性被害者支援の現状から見えてくる課題として、犯罪被害者支援におけるソーシャルワークの必要性を問うたものである。ソーシャルワーカーが犯罪被害者問題に積極的に関与できていないことを浮き彫りにした。
9.海外社会保障事情：イタリアの精神保健福祉事情.	単	2010年	総合社会福祉研究所月刊「福祉のひろば」11月号、p68-69.	イタリアの精神保健福祉事情を視察してきた報告をまとめたものである。
10.DVD「民間被害者支援団体における支援員養成研修」初級編	共	2009年	企画・監修：内閣府犯罪被害者等施策推進室	担当は「被害者支援における社会福祉機関の種類と役割（28分）」、「社会保障・福祉制度（17分）」の箇所である。概論について収録された。
11.社会に安全感・安心	単	2009年	総合社会福祉研究	「私の研究ノート」の一つとしての原稿である。トラウマ支援の視

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
感はありますか？－トラウマ（心的外傷）の視点から考える．			所月刊「福祉のひろば」2月号、p66-67.	点から、いかに安全や安心感が日常生活に欠かせないものであるかについて論じた。
12.「犯罪被害者支援に関する検討会について」（トピックス）	単	2008年	へるす出版「精神保健福祉」第77号、p47-49.	平成17年4月に犯罪被害者等基本法が施行され、現在、基礎的自治体レベル及び都道府県レベルにおいて犯罪被害者への支援を浸透させていくことが急務の課題になっている。犯罪被害者支援を進める内閣府の動向を紹介し、ソーシャルワーカーが被害者をどのように捉え、また被害者のケアに如何に関わっていくかについて論じたものである。
13.「ホームレス巡回相談事業・元ホームレス等自立支援個別援助事業の取り組み」（報告書）	共	2008年	福岡県社会福祉士会ホームレス自立支援委員会　p6-29.	福岡県社会福祉士会で取り組んできたホームレス、ニアホームレスの人々に対して行ってきた4年間の活動報告書である。（本人）は、久留米市における巡回相談とグループワーク実践について実態報告を行い、今後のホームレス自立支援の課題を挙げた。
14.「被害者支援の立場から－犯罪被害者への支援を通して考える－」（コラム）	単	2008年	へるす出版「精神保健福祉」 第74号、p133-134.	実際の民間支援団体の犯罪被害ケースを引き合いに、犯罪被害とはどのようなものかについて概説し、その上で、精神保健福祉士として、どのように被害者に関わっていくべきかについて検討した。
15.「援助を求めないクライエントへの対応－虐待・DV・非行に走る人の心を開く」（書評）	単	2007年	福岡県社会福祉士会「福岡県社会福祉士会研究誌」創刊号、p59-60.	援助を受ける意欲に欠けるクライエントに対して、ソーシャルワーカーとしてあるべき支援方法について論じられた翻訳本を紹介した。支援方法としての向社会的アプローチは、自立・自助を強いる時代に活動を展開していかねばならない現場のソーシャルワーカーにとって、新たな示唆を与えてくれるものであることを付け加えた。
16.「精神科病棟看護従事者におけるトラウマティック･ストレス.」（報告書）	共	2006年	平成19年度 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学事業、p71-81.	「ストレス性精神障害の予防と介入に携わる専門職のスキル向上と情報データベース構築に関する研究」に基づくものである。精神科看護師が患者から受ける暴力や暴言、あるいは自殺の目撃をすることによって、精神的に苦悩し休職や離職をせざるを得ない状況に陥る実態について論じた。
17.「消防隊員のメンタルヘルス調査－PTSD症状の遷延化と有効な精神保健活動のあり方について.」（報告書）	共	2005年	平成18年度厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学事業 研究報告書、p43-55.	「ストレス性精神障害の予防と介入に携わる専門職のスキル向上とネットワーク構築に関する研究」に基づくものである。上記修士論文の消防隊員のメンタルヘルスの結果を簡略にまとめ、記載した。（本人）は、本事業の協力研究者。
６．研究費の取得状況				
1.科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）　基盤研究(C)(一般)	単	2023年4月～2026年	文部科学省	「障害を有した被害児者にも対応した包括的被害者支援の体制構築」
2.科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）　基盤研究(C)(一般)	単	2018年~2023年	文部科学省	「被害者の視点を取り入れた教育」の実践に関する研究
3.JST基金（国立研究開発法人科学技術振興機構）		2018年~2022年	JST/Ｒistex	「トラウマへの気づきを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築」
4.文部科学省科学研究費補助金　基盤研究(C)	共	2016年～2022年	文部科学省	「犯罪被害者支援におけるケアマネジメント・モデルの構築と検証」代表研究者：伊藤冨士江、分担研究者：大岡由佳、大塚淳子
5.日社済社会福祉助成金	共	2014年	公益財団法人 日本社会福祉弘済会	「障害者福祉現場における各事業所間のメンタルヘルスケアの支援体制の構築」の事業名称で、NPO法人大阪障害者センターの研究事業として受諾。（共同研究者）
6.文部科学省科学研究費補助金（若手研究）	単	2013年～2017年	文部科学省	「犯罪被害者のトラウマ・ソーシャルワーク理論化と実践モデルの構築」（研究代表者）
7.文部科学省科学研究費補助金（基盤研究	共	2011年～2013年	文部科学省	「障害者施設職員のメンタルヘルス予防対策の検討-福祉現場の職階に視点をあてて」（研究分担者）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
C)				
8.文部科学省科学研究費補助金（若手研究B)	単	2008年～2011年	文部科学省	「ワークプレイス・トラウマの心理社会的影響並びに予防法・介入法に関する実証的研究」（研究代表者）
9.平成18年度厚生労働科学研究費補助金こころの研究科学研究事業　継続	共	2006年	厚生労働省	「援助者の被るトラウマティックストレスのケア」（研究協力者）
10.2006年度社会安全研究財団若手研究助成　新規	単	2006年	社会安全研究財団	「精神科臨床現場における被害者支援の有用性に関する検討」（研究代表者）
11.平成17年度 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学事業　継続	共	2005年	厚生労働省	「ストレス性精神障害の予防と介入に携わる専門職のスキル向上と情報データベース」（研究協力者）

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2018年～現在	日本フォーレンジック看護協会
2.2015年～現在	日本社会福祉士会
3.2012年～現在	大阪精神保健福祉士協会
4.2012年～現在	日本精神保健福祉学会
5.2010年～現在	兵庫県精神保健福祉士協会
6.2007年～2013年	日本社会福祉士会
7.2006年～現在	日本社会福祉学会
8.2006年～2012年	日本ソーシャルワーカー協会
9.2005年～2011年	日本社会精神神経医学会
10.2005年～現在	日本精神保健福祉士協会
11.2004年～現在	日本トラウマティック・ストレス学会